

## アメリカの読書相談サービスにおけるアピール概念とツール —Genreflecting（第8版）の分析に基づいて—

齋藤 未喜

文部科学省の学習状況調査や全国学校図書館協議会の読書調査から、図書のジャンルを問わず読書を推進することによる学力・読解力等の向上が示唆される一方で、高校生以上では特に読書量が減少傾向にあることが指摘されている。アメリカでは1990年代から読書相談サービス（Readers' Advisory Service : RA サービス）の意義が見直され、成人が余暇としてフィクションやノンフィクションを読むことに対して、公共図書館として支援する新しい動向が見られる。このサービスでは、豊富な知識を持つ経験豊富な図書館員が中立的な立場から、余暇読書の支援に役立つ参考図書の収集やブックリストの作成、読者個人の好みや読みたいものを探るインタビューなどを行う。ALA ユーザーレファレンス・利用者サービス部会蔵書構築評価分科会（RUSA/CODES）と *Library Journal* による RA サービスに関する調査からは、RA サービスを重要視するアメリカの図書館員が多いことが示唆される。

本研究では、日本の読書活動推進に寄与することを念頭に、アメリカの RA サービスの代表的なツールである *Genreflecting: a guide to reading interests in genre fiction* 第8版（2019）について、その構成や作品解説の方法に着目しつつ特徴を分析し、その結果を踏まえて、楽しみのための読書（Reading for Pleasure）を支援するための、読書相談サービスや活用ツールのアプローチについて考察する。

具体的には以下の2つの調査分析を行った。(1) *Genreflecting*（第8版）の構成の特徴についての計量的な調査分析、(2) 作品の解説方法に関する調査である。前者では、分類基準としてのジャンルやサブジャンル、掲載された図書やシリーズもの、作家などについて計量的な方法を採用して調査し、その特徴を分析する。後者では、このツールで紹介された作品から標本抽出された38点の作品に付けられた解説テキストを対象とした調査をする。その際、アメリカの RA サービスにおいて重要視されている Appeal 要素（読者が作品の中で興味を引かれ、共感や楽しみ等の理由となっている要素）という概念に照らした分析をする。

本研究の調査から、*Genreflecting*（第8版）は、8つの人気ジャンルについてページ・掲載項目数ともにほぼ均等な割り当てや、定義や流行、関連する文学賞や各種ツールの紹介が見られた。サブジャンルは詳細な区分がなされ、その概要には関連するジャンルやサブジャンルへの参照を促すなどジャンル横断的な記述も見られた。作品解説では、Appeal 要素に照らして分析すれば、登場人物や設定についての解説が多く、さらに、登場人物、現実世界との距離感、雰囲気表現など、作品をより具体的に想像させる解説内容も説明されていた。その他、読者の反応、類似した感覚を読者にもたらし作品を解説に加えるなど、読者の嗜好や読書の経験に訴える解説になっていることに特徴を指摘できる。これらの結果を踏まえて、アメリカにおける読書相談サービスや活用ツールのアプローチについて考察する。

（指導教員 原 淳之）